

# 中学校第3学年 美術科 学習指導案

期 日 平成24年10月5日(金) 第5校時  
場 所 津奈木町立津奈木中学校 美術室  
指導者 教諭 犬童 昭久

## 1 題材名

地域への発信～地域のロゴ・マークをデザインする～(第3学年 A表現(2)(3)、B鑑賞(1))

## 2 題材について

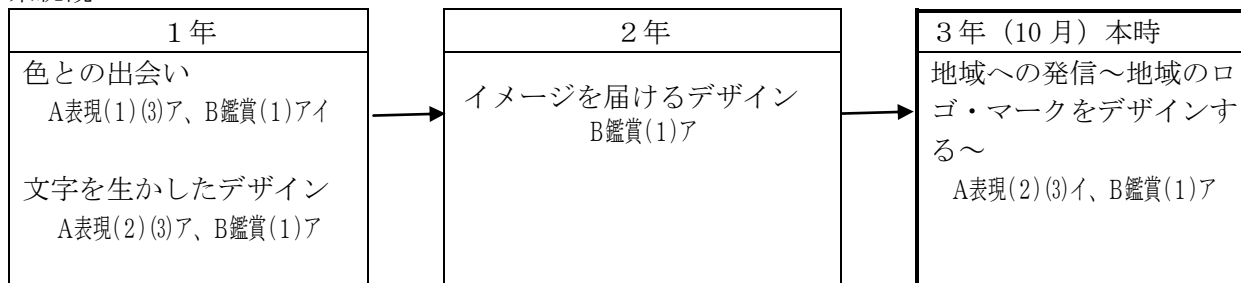
### (1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領美術科の第2学年及び第3学年のA表現の項目(2)のイ及び(3)のア、さらにB鑑賞の項目(1)のアに関連する題材である。

ロゴ・マークとは、商品などのイメージを印象付けるために、ロゴタイプと標章などを合わせて図案化したものである。本題材では、地域のよさを広くアピールするために、自然や特産物等からテーマを選択し、それを効果的に表すロゴ・マークをデザインする活動を行う。また、出来上がった作品の鑑賞会を行い、自身の作品のテーマや工夫した点、作品への思いなどを伝え合い鑑賞し合う活動を行う。

また本題材は、第1次「プロに学ぶ(グラフィックデザイナーの講話、作品鑑賞)」,第2次「アイデアを練る」,第3次「作品に表す」,第4次「互いの作品を鑑賞する」という流れで学習を進めていく。その中で、グラフィックデザイナーに協力してもらい、第1次ではグラフィックデザイナーの作品を基に、ロゴ・マーク表現の意義や造形要素などの基礎的・基本的事項について指導してもらう。さらに、第4次の互いの作品を鑑賞する活動では、プロの視点から講評をもらう予定である。このように、デザイン現場の第一線で活躍する人の話を聞き、直接指導を受け評価されることは、生徒にとって普通の授業以上に關心や意欲を高めることになり、さらにデザインにおけるイメージの伝達等についてより深く理解させることが期待できるものである。

### (2) 系統観



### (3) 生徒観

本学級の生徒は男子15人、女子14人の計29人である。これまでの美術の学習への取組についての意識調査を平成24年5月に実施した。

「関心・意欲・態度」に関わる項目においては、「美術の時間がとても待ち遠しい」と答えた生徒は53.4%、「作品の構想を練るとき、わくわくする」と答えた生徒は50.0%、また、「自分は努力すれば表現や鑑賞がもっとできる」と考えている生徒は53.3%と約半数に留まっていた。

「発想や構想の能力」に関わる項目では、「作品をどのように表現しようかと考えるのは楽しい」と答えた生徒は60.0%であった。また、「作品をこんな風にしようとしてしっかりイメージして取りかかることができた」と答えた生徒は83.3%であるのに対し、「自分が表したいイメージを表現するために、形や配色、表現技法などを具体的に考えて制作できた」と答えた生徒は66.7%であった。

しかし、「創造的な技能」に関わる項目、「色をつくりだしたり表現技法を工夫したりして表現できた」について、「できた」と答えた生徒は83.3%、「色をつくりだしたり表現技法を工夫したりすることは楽しい」について、「そうだ」と答えた生徒は82.7%という結果であった。これは、構想を十分に練ることはできていないが、表現の工夫はできているとの生徒の意識を示しているものと考えられる。

「鑑賞の能力」に関わる項目においては「自分の作品を友達に見てもらうのは楽しい」と答えた生徒

は 34.4%と極端に少なかったが、「友達と作品を見せ合って感想やアドバイスを述べ合うことはとても参考になる」と答えた生徒は 72.4%に達し、互いに学び合うことのよさに気付いていることを示している。

以上のような意識調査の結果と、日常の美術の授業での見取りから、本学級の生徒の全体的な傾向を考えると、授業には概ね積極的に参加し、制作も意欲的に取り組むことができていると言える。また、自分が表したいイメージを持つこともできているが、それを表現するために形や配色、表現技法などを具体的に考えることについては課題のある生徒が多い。

また、互いの作品を見せ合って鑑賞をする際、自分の作品を友達に見せることに抵抗感を持っている生徒が多いが、これは先に述べたように構想が十分でないことから、自分の表現に自信を持っていない生徒が多いことを示していると考えられる。

#### (4) 指導観

先に述べたように、本題材の第1次では、グラフィックデザイナーにロゴ・マークの表現の意義や造形要素について指導をしてもらう。この授業は本校の近くにある美術館にて行う予定である。本題材の授業を実施する期間中、グラフィックデザイナーの個展が開催されるため、会場を訪問して作品を教材に基礎的・基本的事項の習得を図る予定である。このことにより、生徒の本題材に対する興味関心を一層高めることができると考える。また、パフォーマンス課題の提示も行い、題材を通して意欲的に取り組むことができるようにする。

また、表わしたいイメージを表現するために形や配色、表現技法などを具体的に考えることができるようにするために、本題材で身に付けさせるべき基礎的・基本的事項を洗い出し、それらの習得と活用を図るようにする。特に、構想を練る時間を十分設け、ワークシートを用いてアイデアを整理させるようにすることで充実を図る。

以上のような指導は、生徒に自分の表現への自信を持たせることにもつながると考えるが、それを確かなものとするために、構想を練る段階（第2次）に生徒同士の意見交換の場を設定する。互いの構想についてアドバイスし合わせることにより、デザインの学習の大事な要素である第三者の視点に触れ、その中で形や色彩などの効果を確認して自分の構想をより確かなものとし、自信へとつなげさせていきたい。

#### Bプロジェクト「学習評価と指導の改善」の視点から

##### ①本題材で育成する思考力・判断力・表現力等

中学校美術科において「思考力、判断力、表現力等」に深くかかわるものは、「A表現」領域の「発想や構想の能力」と「B鑑賞」領域の「鑑賞の能力」である。「発想や構想の能力」とは、「感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練る能力」であり、「鑑賞の能力」は「感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりする能力」である。

本題材は、地域を効果的にアピールするロゴ・マークをデザインする表現の学習と、完成した作品を鑑賞し合う学習とで構成されている。そこで、本題材においては、「発想や構想の能力」として「単純化や強調、組合せ等を工夫して豊かに発想し、美しいロゴ・マークの表現の構想を練る力」を、また「鑑賞の能力」として、「友だちの作品を鑑賞し、発想や表現の工夫を感じ取り、自分の見方を深める力」をはぐくむことを目指す。これらの力が身に付くことで、本題材での「思考力・判断力・表現力等」は育成されると考える。

##### ②どのように評価するか（内容と方法）

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」（H22.3月）には、「思考力・判断力・表現力等」を評価するに当たって、『パフォーマンス評価』に取り組んでいる例も見られる。」と示されている。一般的に「思考力・判断力・表現力等」は、見えにくい学力と言われている。松下佳代氏は、この見えにくい学力を、パフォーマンス（ふるまい）の形にして見えるようにする「可視化」を図り、パフォーマンスからその背後にある学力を推論する「解釈」を行うことで、見えにくい学力を評価できると述べており、これを「パフォーマンス評

価」と呼んでいる。

本題材においては、この考え方を基に、見えにくい学力である「発想や構想の能力」と「鑑賞の能力」を見取ることとした。生徒に知識やスキルを総合して使いこなすことを求める「パフォーマンス課題」を提示し、それによって作品制作・プレゼンテーション・鑑賞の記述等の生徒のパフォーマンスを導き出し、それらをルーブリックによって適切に評価していくこととした。

### ③工夫点

本題材においては、「Bプロジェクトにおける授業設計の手順」に基づき、「パフォーマンス評価」を中心とした題材の評価計画、及び「知識・技能を活用する学習活動」を位置付けた題材の指導計画を中心に授業設計を行った。

美術科においては、教科の特性として知識・技能の習得と活用は区別してとらえるものではなく、双方の行き来の活性化を図る授業づくりを行う必要がある。本題材においてはこの習得と活用の行き来の活性化を考慮して指導計画を作成した。

まず第1次で、ロゴ・マークの表現の意義や、単純化、組合せ、強調等、イメージを効果的に伝えるための表現方法などについての知識や技能を習得させ、以後の表現や鑑賞の各活動での活用を通して確実に身に付けさせるようにした。合わせて、色の性質や感情、文字（書体）の特徴等の既習事項についても習得と活用の行き来の活性化を図ることとした。

## 3 題材の目標と評価規準

題材の目標	地域のよさを効果的に伝えるために、豊かに発想し工夫して表現すると共に、表現の意図や工夫等を感じ取る。
関心・意欲・態度	ロゴ・マークの表現に関心を持ち、イメージを効果的に伝えるために表現方法を工夫して制作し、鑑賞しようとしている。
発想・構想の能力	単純化や強調、組み合わせ等を工夫して豊かに発想し、美しい表現の構想を練っている。
創造的な技能	伝えたいイメージを効果的に表すために、材料や用具の特性を生かし、工夫して表現している。
鑑賞の能力	作者の意図や表現の工夫、生活におけるデザインの働き等を感じ取る。

## 4 指導・評価の計画（5時間取扱い 本時1／5）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準（評価方法）
	1	「プロに学ぶ」 ○グラフィックデザイナーの個展会場を訪問して ・作品を鑑賞する ・ロゴ・マークの表現の意義、造形要素等を理解する。	・ロゴ・マーク作品や資料を使い、ロゴ・マークの表現の意義、造形要素などの習得を図る。	<b>関心・意欲・態度①</b> （ワークシート、観察） グラフィックデザイナーの作品や話から、ロゴ・マークの表現の意義や造形要素等を理解しようとしている。

2	2	<p>「アイデアを練る」</p> <p>○地域の特産物等をテーマに構想を練る</p> <p>○友達とアドバイスし合う。</p>	<p>・地域の様々なよさから表したいテーマを明確に決めさせる。</p> <p>・単純化，組合せ，強調等，イメージを効果的に伝えるための表現方法を工夫するように伝える。</p> <p>・表したいイメージが伝わるかという視点から互いにアドバイスし合わせ，受け取る人のことを考えた内容，目的に合ったデザインの魅力や意義について考えさせる。</p>	<p><b>発想・構想の能力①</b>（ワークシート・観察）</p> <p>地域の様々なよさから表したいテーマを決め，単純化や強調，組合せ等を工夫して美しい表現の構想を練っている。</p>
3	1	<p>「表現する」</p> <p>○材料や用具の特性を生かし，工夫して表す。</p>	<p>・伝えたいことや主張したい内容を効果的に伝えるために，材料や用具，形，色などを具体的に考え，試したりしながら表現させる。</p>	<p><b>創造的な技能①</b>（作品・ワークシート・観察）</p> <p>伝えたいイメージを効果的に表すために，材料や用具の特性を生かし，創造的に表現している。</p> <p><b>関心・意欲・態度②</b>（観察）</p> <p>伝えたいイメージを表そうと，材料や用具の特性を生かして表現しようとしている。</p>
4	1 (本時)	<p>「互いの作品を鑑賞する。」</p> <p>○自分の作品のテーマや表現の工夫等を説明する。</p> <p>○友達の作品の発想や表現の工夫等を感じ取り，伝え合う。</p> <p>○グラフィックデザイナーに講評をもらう。</p> <p>○学習のまとめをする。</p>	<p>・完成した作品を提示すると共に，作品のテーマや表現の工夫等を具体的に説明できるよう，ワークシートを活用させる。</p> <p>・友達の作品を鑑賞して，発想のよさや表現の工夫等を感じ取り，自分の見方を深めることができるように，ワークシートを活用させる。</p>	<p><b>鑑賞の能力①</b>（ワークシート・発言）</p> <p>友達の作品を鑑賞し，発想のよさや表現の工夫等を感じ取っている。</p>

## 5 本時の学習

### (1) 目標

友達の作品を鑑賞し，発想や表現の工夫を感じ取る。

### (2) 評価基準

「鑑賞の能力①」（ワークシート・発言）

（B基準）友達の作品を鑑賞し，発想や表現の工夫等を感じ取っている。

（A基準）友達の作品を鑑賞し，作り手の意図や表現の工夫等を幅広い視点で感じ取り，生活におけるデザインの働きまで考えている。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
導入 5分	1 本時の課題を確認する。【一斉】	○プレゼンテーションの準備物の確認をしましょう。	※プレゼンテーションにおける発表のアピールポイントを確認させる。	参考作品 (グラフィックデザイナーの作品)
展開 35分	2 鑑賞会を行う。 (1) グループで、作品を提示し工夫した点を述べる等して鑑賞し合う。【グループ】	○自分の作品のテーマや工夫した点、作品への思いなどを説明し、また、友達作品から、発想や構想のよさ、表現の工夫等を感じ取りましょう。	○友達の発想のよさや表現の工夫などについての気付きは、ワークシートに記録させる。  評価：鑑賞の能力① (行動観察・ワークシート) 友達の作品を鑑賞し、発想や表現の工夫を感じ取っている。  〈B基準に達しない生徒への手立て〉 ・ワークシートにより鑑賞の視点を提示し、対話を通して発想や表現の工夫等のよさを感じ取らせる支援を行う。	生徒作品  ワークシート
	(2) 全体で、各グループの友達の作品のよさ等を紹介し合う【一斉】	○グループの友達の作品を発想や表現の工夫等の視点から、クラスみんなに紹介しましょう。		
5分	3 グラフィックデザイナーによる作品の選出と講評を聞く。【一斉】	○大事なポイントはメモさせるようにする。  ○質問があれば聞いてみましょう。	○ロゴ・マークのテーマの重要性やデザインのポイント等を押さえてもらう。 ○これまでの表現活動の中で出てきた疑問などについても出させるようにする。	
整理 5分	4 学習のまとめ。 【一斉】【個人】 本題材のまとめを聞き、学習を振り返ってワークシートで自己評価を行う。	○これまでの学習を振り返って、自己評価をしましょう。また、友達の発表やグラフィックデザイナーのお話を聞いて思ったことなどをまとめましょう。	○地域のよさをロゴ・マークで発信する意義やよさ、また生徒の取組状況などを評価してまとめる。	ワークシート